

この八月四日から六日、岡山自主夜間中有志の皆さんと韓国・釜山（プサン）を訪問しました。今回から少し、そのことを中心に書いてみようと思います。きっかけは韓国・釜山大学師範大学の前学長、金富允先生とのつながりからです。（韓国の大学は、イギリスのオックスフォードやケンブリッジがカレッジの集合体であるように、大学の集合体で、釜山大学師範大学という名称になっています。ちなみにニュートンはケンブリッジ大学のトリニティ・カレッジです。）金先生は日本の大学でも研究されており、日本語も堪能で、日本の数学教育の学会なども熱心に視察されていました。また、ICT教育の魁である、グラフ電卓を用いた教育も実践しておられ、私が、まだ日本ではあまり活用されていなかったグラフ電卓を用いた研究を発表していることに注目していただき、2012年に韓国ソウルで開催された四年に一度の国際数学教育会議 ICMEに招待して頂くことになりました。ICMEは International(インターナショナル:国際)

Mathematics(インターナショナル:数学) Education(教育:エデュケーション) Congress(会議:コンGRESS)の略で ICME です。その名の通り、行こうと思っても「そうは いくめえ」というくらいいくのが難しいのです・・・ まあ、こんなことばかり言っているから河合先生の授業は、締まりがないと言われるのですが。

そして、金先生は野球も好きで、毎年、倉敷で開催されている国際還暦野球大会に、監督としてチーム「ダイ・ハード」を率いて参加されていました。私は大会後の打ち上げを頼まれたりしていたので、そのような縁で、金先生に夜間中の韓国訪問の計画をお願いしたところ、快く引き受けて頂き、韓国の夜間中学を始め、釜山市の教育関係のトップクラスの方々との懇談をセッティングして頂き、訪問が実現したわけです。

訪問した韓国の夜間中学は、ハンリン夜間中学といい、韓国の慶州（キョンジュ）にあります。慶州は釜山の北東、古代朝鮮の王国・新羅（シルラ）の都でした。新羅の時代は、岡山は、吉備の国と言われ、吉備真備や和氣清麻呂の活躍した頃でした。慶州は日本の京都・奈良のような古都ですが、高層建築が全くありませんし、屋根も古の瓦屋根で、昔の趣そのままの美しい景観のところ。一方釜山の郊外は数十階建ての高層マンションが林立し、その数、ざっと見ても岡山の数十倍といった感じでした。先に述べたICMEのシンボルマークに採用



瞻星台

されたのも慶州の古代の天文台 瞻星台（せんせいだい）です。数楽通信でも何度か触れたように天体観測には、数学が必須です。特に、高校数学で悩まされた三角比、 \sin 、 \cos が大活躍します。私のICMEでの発表テーマも三角比でした。ハンリン夜間中学は岡山自主夜間中とよく似て、慶州のバスターミナルの向かいの建物の三階にありました。しかし、すでに創立五十周年を迎えており、その立派な記念誌を頂きました。教室にありますのでご覧下さい。対応して頂いたスタッフの方は、三名とも女性、韓国では数学の先生も女性が多いというのは知っていましたが、ここでも女性が活躍されているようです。岡山自主夜間中に比べ、公的な資金の援助はあるということでしたが、とても十分な額ではなく、運営費の調達には苦勞していると、高高校長先生は、涙ながらに語っておられました。五十年の歴史の卒業生からの寄付が有り難いとしみじみ言っておられました。